

食の安全推進のためのタウンミーティング結果

開催日:平成28年12月20日(火)
場所:袋井市総合健康センター(袋井市)
主催:静岡県
回答人数:25名

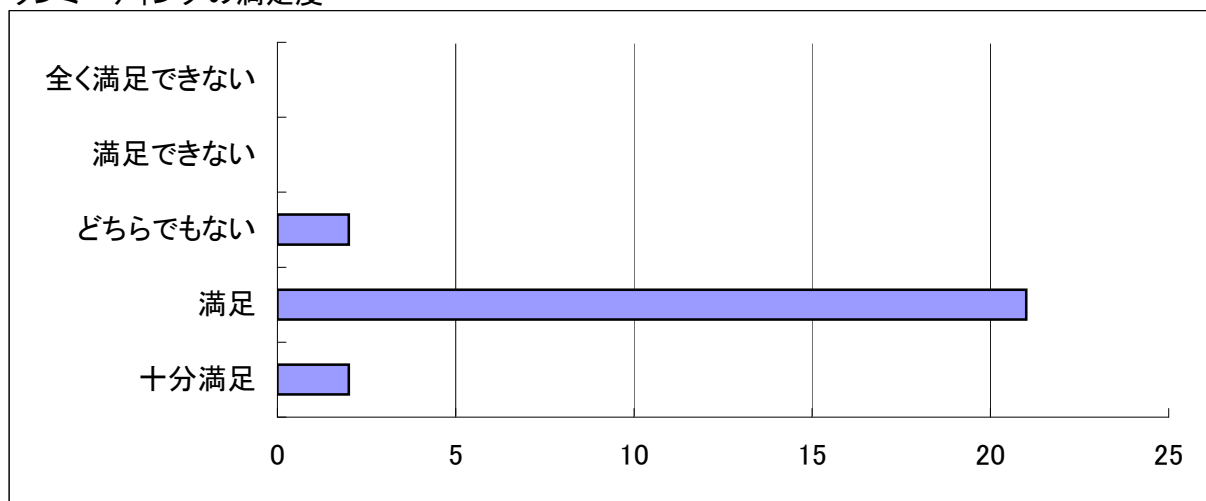
I 参加者

(1)男女比

男性	1人
女性	24人
合計	25人

II タウンミーティングについて

(1)タウンミーティングの満足度



III 意見・感想(アンケートから抜粋)

- モニターアンケートで食品添加物が不安との回答が多いが、どのような食品添加物に不安を感じているのか。
- 聞いた内容を活動に生かせるようにしたい。
- 同じような食品でも値段の差が大きい。その理由は原産地が大きく影響していると思う。
- もっと一般市民にも知ってもらうために、テレビ番組で取り入れる等工夫してほしい。
- 家庭菜園をやっていて、「農薬ゼロ」はありえないと実感はしていた。基準に添って安全な農作物の流通をお願いし
- 農薬については、必要に応じて使用されていることは理解できた。しかし、農家の人の声で自分達が食する野菜は農薬は使用しないもので、流通させるものは農薬を使用していると聞くと不安になる。
- 説明でHPIに掲載されているとあるが、我が家ではパソコンがない。
- 行政側の説明はよく分かった。食品表示のPRは県全体で1万部でも県全体で1/360ですので、もっと続けていった方がよい。
- 未来の食を担う、中学生、高校生、大学生にも啓発が必要ではないか。
- 輸入された商品で不安な商品がまだあります。
- 県内の農産物について、どういった検査がされていて、どれだけ安全かがよく分かった。放射性物質検査についても、5年以上震災から経過しているにも関わらず、検出もされていない農産物を検査しているのに驚いた。日本の食の安全性はやはり高いなと感じた。
- 食品表示のリーフレットは見やすく、今後、食品表示を見てもみようという気になった。

IV 会場で頂いた質問

○産直市で販売される農産物の安全性について

(県回答)市場を経由する農作物であっても、直売所で販売される農作物であっても、農薬の適正使用は生産者において管理されなくてはならない。なお、流通される農産食品については、農協、市場等で行政の行う抜き取り検査(収去検査)をし、残留農薬を検査している。

(会場参加者)自分は農作物をJAの産直市で販売しているが、JAでも独自に検査している。

○自主管理を促進を進めるうえで、食品表示責任者の対象を広げていく考えはあるのか。

(県回答)食品衛生責任者養成講習会の対象者は、食品製造者に限らず、食品販売業者、飲食店営業者等、静岡県食品衛生協会の会員も対象に広く食品表示に関する知識などの普及に努めている。

○中国産の海産物がよく販売されているが、輸入品においても放射性物質の検査を行っているのか。

(県回答)輸入品の放射性物質検査は、チェルノブイリによる汚染の影響を鑑みて、国(検疫所:厚生労働省)が中心となって実施されているので、全ての輸入品が検査されるわけではない。

○主人がよく釣りをする。海産物について放射性物質について心配する必要はあるのか。

(県回答)本県の海水において放射性物質検査が検出されていないこと、(黒潮等の)海流の流れ、水産庁の放射性物質検査の結果を見ると回遊する魚種でこれまで基準値を超えるものはないことから、県内海域で釣られる魚については、必要以上に心配することはないと考える。

○行政(地域農業課)から参加者への質問:「県内で生産される主な農林水産物の放射性物質検査について」

- ① 現状のどおり、品目も頻度(年1回)の検査実施してほしい 8名
- ② 引き続き、放射性物質の検査は必要と考えるが、品目については検討してもよいのではないか…大多数
- ③ きのご等 放射性物質が検出されている品目のみ、その他は止めてもよいのではないか…1名

(関連意見)西部、中部地区の放射性物質検査の結果が問題ないのであれば、富士山以東が福島からの放射性物質物質影響があったとして、検査地区の範囲を限定してはどうか。